

The Japan Dickens Fellowship

NEWSLETTER Spring 2008

Department of English Literature
Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University
17-24 Kawauchi, Aoba-ku, Sendai 980-8576
Tel & Fax +81(0)22-795-5961(Department Office)
E-mail : *****
<http://www.soc.nii.ac.jp/dickens/>



2008年6月26日

2008年春季大会報告

Spring Conference 2008 at Edogawa University

2008年度の春季大会は6月7日（土）、江戸川大学（千葉県流山市駒木）にて開催されました。参加者は約50名、熱のこもった研究発表と映像を豊富に取り入れた講演が行われました。江戸川大学からは学生のほか職員の方までお手伝いをいただき、A棟8階のフロア全部を貸し切りなど、全面的なご支援をいただきました。学長の市村佑一先生、大会のオーガナイザーをいただいた松村豊子先生をはじめ、江戸川大学の皆様に心より深く感謝申し上げます。



江戸川大学の会場は明るく広々として快適。いつものように多数の日本支部会員が集いました。



今大会のホスト校、江戸川大学の学長、市村佑一氏から歓迎のご挨拶をいただきました。市村先生は小池滋名誉支部長に負けず劣らずの鉄道マニアだそうです。



会場からの見晴らしも抜群で、関東平野の広大なパノラマを楽しむことができました。

第一部 研究発表

司会 武井暁子（中京大学教授）

寺内 孝「ディケンズの3小説*David Copperfield*, *A Tale of Two Cities*, *Great Expectations*を読む」

寺内氏の発表は、1840年代後半から1860年に至る期間のディケンズがどのような状況にあったかを詳細にリサーチして、エレン・ターナンとの関係、キャサリンとの別居などから生じた罪悪感が、同時期に書かれた3篇の小説にいかん表現されているかを追求したものでした。ディケンズについての深く詳細な知識を縦横に駆使したもので、大変に説得力があり、これらなじみ深い3篇についての見方を新たにさせられました。



第二部 講演

講演1 司会 新野 緑（神戸市外国語大学教授）

David Chandler（同志社大学准教授）“*The Cricket on the Hearth* in the Italian Opera House”

19世紀イタリアではオペラが最盛期を迎えていましたが、ウォルター・スコットの作品がいくつもオペラ化されたのに比して、ディケンズの作品は作曲家の興味を惹きませんでした。注目すべき例外は『炬燵のこおろぎ』です。チャンドラー氏は、なぜこの作品がオペラ化されたのか、



ヴェルディ以後のイタリア・オペラの展開の中でどのような意味を持ったのかを考察しました。実際の上演のビデオをまじえながらの講演は大変に刺激的なものでした。

講演 2 司 会 佐々木 徹（京都大学教授）

Michael Pronko（明治学院大学准教授）“En-visioning Dickens: early silent and sound films”



ディケンズの小説は何度となく映画化されてきました。ゲストとしてお招きしたプロンコ氏の講演は、サイレント時代からの映画制作者たちが、作品の映像化にあたって、ディケンズをどのように解釈してきたのかを綿密にたどったものでした。オリヴァーが「おかわり」を要求する有名な場面が、時代により映像の中でどのように変化してきたかを貴重なサイレント・フィルムもまじえて紹介していただきました。学問的に興味深いだけでなく、大いに楽しめる講演でした。

（プロンコ氏は、先日全会員に送付した*The Dickensian*, Spring 2008に『ディケンズ鑑賞大事典』の書評を執筆しています。ぜひご覧ください。）



懇親会

大会終了後、バスで柏駅前のザ・クレストホテル柏に移動し、懇親会が開かれました。三十名が参加、フェロウシップ精神がいかに発揮された歓談の熱気は、十数名が参加した二次会のカラオケまで続きました。

諸 報 告

(1) 故村山敏勝氏を偲ぶ会が4月26日夕、東京大学駒場キャンパスで開かれました。70名以上の参加者があり、会場に入りきれないほどで、故人の影響力がいかに大きかったかをあらためて感じました。

(2) 『年報』第31号の編集について。

※論文投稿は6月10日で締め切りました。3篇の投稿があり、現在査読担当理事により審査中です。

※自由投稿記事・ニュースの締切は8月15日とします（支部長宛に「可能なかぎり電子メールで」お送りください）。

※『年報』に掲載いたしますので、皆様の業績報告を随時メール・郵便等により、支部長または松岡光治理事宛（e-mail: ****）に御報告ください。

また、日本におけるディケンズ研究書誌を作成するため、会員（および会員以外の方）2007年度の著書・論文等の報告にもご協力をお願いいたします。できれば以下のウェブフォームでご報告ください。

<http://form1.fc2.com/form/?id=31664>

(3) 支部長からの提案について

今大会の理事会で、支部長から次の2点について検討いただきたいとの提案をさせていただきました。できれば秋季総会で結論を得たいと考えております。メーリングリストを通じてあらためて議論を呼びかけますので、会員の皆様にご検討をお願い申し上げます。提案の理由については別紙「支部長からの提案」をご覧ください。

○ 現在開かれている春季大会と秋季総会を一本化し、年1回の大会開催とする。

○ ディケンズ生誕200年(2012年)を記念して、全文英文による論文集を日本支部として編集・刊行する。

2008 年度秋季総会予告および研究発表募集

2008 年度秋季総会は、永岡規伊子さん、西條智子さんのお世話により、10月4日(土)に大阪学院大学・短期大学（大阪府吹田市）で開催される予定です。

研究発表を募集しますので、ご希望の方は、下記要領でふるってご応募ください。

研究発表の内容要旨を400字程度にまとめたものを、8月10日までに、下記宛電子メールで支部長宛お送りください。

※ 電子メールが利用できない方は事務局宛郵送でかまいません。

応募者多数の場合には、やむを得ずお断りする場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局

〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 東北大学大学院文学研究科 英文学研究室内

電子メール：***** 電話・ファクス：022-795-5959（原支部長直通）